

事務事業評価シート

事務事業名	生徒指導充実推進事業		
担当部局名	担当室名	室長名	
教育委員会事務局	学校教育室	山村 浩由	

(R1)No.	1147	(H30)No.	1147
会計区分		事業コード	466601
一般会計		(中事業名)※予算書事業名	
教育費		生徒指導充実推進事業	
教育総務費		(小事業名)	
教育振興費		生徒指導充実推進事業	

1. 事務事業の位置付け

総合計画	政策	4	豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち
	基本施策	1	生きる力を育む教育の推進
	施策	1	学校教育
重点プロジェクト			

2. 事務事業の概要

事業目的(めざす効果)
いじめや不登校になりやすい児童生徒の早期発見や学級状態把握のため、市内全児童生徒に、Q-U調査(学級満足度調査の心理検査)を実施し、改善の取組実施により、児童生徒の学校に対する満足度を高めます。
事業内容
将来、社会に適応する子どもを育てるために、学級集団や学年・学校の集団づくりを通して、いじめや不登校が生まれない望ましい人間関係づくりの取組を進めていきます。また、支援が必要な児童生徒をはじめ、不登校や問題行動を示す児童生徒はもちろんのこと、すべての児童生徒に対して、他者理解や自己有用感を高める取組により、いじめや不登校等の未然防止を図ります。

3. 総合計画の目標達成に向けた主な事業の実績・計画

	H30年度(事業量・取組実績)	R1年度(事業量・取組計画)	R2年度(事業計画)	R3年度(事業計画)	R4年度(事業計画)
主な事業の実績・計画	・学級満足度調査活用検討委員会(1回)・教育相談担当者会(2回)・生徒指導推進委員会(7回)・Q-U調査・各校研修会への講師派遣(4回)	・学級満足度調査活用検討委員会(1回)・教育相談担当者会(2回)・生徒指導推進委員会(6回)・Q-U調査・各校研修会への講師派遣(依頼のあった学校)・校内研修サポート(電子研修データの提供)	・学級満足度調査活用検討委員会(1回)・教育相談担当者会(2回)・生徒指導推進委員会(6回)・Q-U調査・各校研修会への講師派遣(依頼のあった学校)・校内研修サポート(電子研修データの提供)	・学級満足度調査活用検討委員会(1回)・教育相談担当者会(2回)・生徒指導推進委員会(6回)・Q-U調査・各校研修会への講師派遣(依頼のあった学校)・校内研修サポート(電子研修データの提供)	・学級満足度調査活用検討委員会(1回)・教育相談担当者会(2回)・生徒指導推進委員会(6回)・Q-U調査・各校研修会への講師派遣(依頼のあった学校)・校内研修サポート(電子研修データの提供)

	H30年度(決算見込)		R1年度(作成時予算額)		R2年度(計画予算)	R3年度(計画予算)	R4年度(計画予算)
	H29繰越分	H30現年分	H30繰越分	R1現年分			
①直接事業費		1,352千円		1,412千円	1,412千円	1,412千円	1,412千円
内訳(千円)							
国・県支出金							
地方債							
その他()							
一般財源	0	1,352	0	1,412	1,412	1,412	1,412
人工数							
職員		0.37人		0.19人	0.19人	0.19人	0.19人
臨時職員等		0.02人		0.02人	0.02人	0.02人	0.02人
②概算人件費	0千円	2,811千円	0千円	1,461千円	1,461千円	1,461千円	1,461千円
①+②総事業費	0千円	4,163千円	0千円	2,873千円	2,873千円	2,873千円	2,873千円

4. 担当室による事務事業の点検

考察(H30年度の取組評価、課題、施策への貢献、市民との協働など)
Q-U調査をもとに各学校で事例検討・共通理解を図ることで担任の抱え込みが減少し、複数の教員によるチーム対応ができました。市内全体の満足度は年度初めの5月よりも、学校での取組が進んだ11月調査のほうが、9学年中8学年で上昇し1回目調査を踏まえて各学校、学年、教職員間で快適な教育環境の整備に取り組みました。また不登校児童生徒数一昨年度よりも3件減少し、はここ10年間で2番目に少ない水準まで減少しました。今後も継続して児童生徒にとって居心地のよい学級集団をつくっていく必要があります。

5. 今後の方向性(担当室による内部評価)

【選択肢】 継続(改善)、継続(現行)、継続(拡大)、継続(縮小)、統合(予定含む)、休止(予定含む)、廃止(予定含む)、事業完了(予定含む)	継続(改善)
今後の対応方針(課題解決への取組内容、具体的な見直し内容、継続の理由等)	6. 事務事業の取組に関する市の計画
各学校におけるQ-U調査結果の活用ができるよう、調査項目・分析を改善します。研修会の開催や情報提供、指導主事の学校訪問等により、学級間や学年間の教師の働きかけや取組の温度差をなくすとともに、学校体制による児童生徒の居場所づくり、絆づくりのための取組を推進します。Q-U調査を毎年実施することで、経年変化や中1ギャップの取組も具体的にでき、より居心地のよい学級集団づくりに効果をあげています。今後も継続して実施する必要があります。	第二次名張市子ども教育ビジョン ばりっ子すくすく計画(第3次)